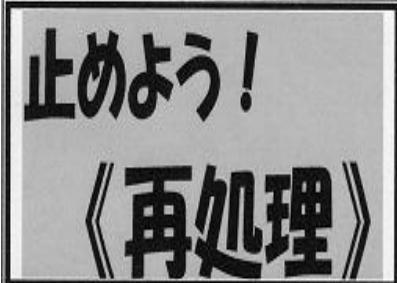


**三陸の海を放射能から守る
岩手の会**（略称）**三陸の海・岩手の会**

郵便振替 02240-5-102650
 ホームページ [再処理/岩手の環境/RI](#)
 廃棄物 ([coocan.jp](#))
 本紙は市民カンパで発行しています。
 購読したい方は事務局に連絡下さい



《天恵の海》
 2026(令和八年)
 1月11日
 第268号
 編集事務局 S.Oshida
 TEL・FAX 019-623-1636

アクティブ試験は終わってない
竣工は暴挙だ



六ヶ所村の再処理工場



震度6強

震度5弱

2025年12月8日 午後11時15分

青森沖地震 震源地はMW7.5

青森・岩手の四市民団体が、日本原燃へ提出した六ヶ所再処理工場の安全性を問う公開質問書への回答書が到着し、その質疑・意見交換説明会が六ヶ所村で開催されました。六ヶ所再処理工場に液体状で貯蔵されている「高レベル放射性廃液」は、万が一、環境に放出されれば、地球規模の放射能汚染を引き起こす超危険物です。私たちは、一日後に、MW7.5の青森東方沖地震が発生し六ヶ所再処理工場は激しく揺さぶられました。

今こそ全面撤退の時

失敗を認めよ！

化試験をアクティブ試験では、PWR（加圧水型原発）の高レベル実廃液は終了したが、BWR（沸騰水型原発）の実廃液の性能試験はまだ行

質問1
原燃回答書（要点）
 繼続中のアクティブ試験は失敗だったのではないか？

原燃回答書（要点）
 ガラス固化に関する試験が残っているが、使用前事業者検査として実施し、確認証の受領をもつて完了。その後溶液、廃液処理運転を実施した上で再処理工場を稼働する計画である。アクティブ試験報告書のガラス固化に関しては、検

査前に実施した試験項目では**確認事項を満足**し終了している。製品の回収率は第4ステップでの試験で、使用済み燃料は4480kg処理し、 plutoniウムもウランも目標の98.2%を回収した。

質問2
原燃回答書（要点）
 全量425トンのうち約4.5トンのみでの回収率であり全体の回収率を問うたのに回答していない。原燃の定期報告書からの試算ではウラン91%、 plutoniウム78%の回収率であり目標から程遠い値であった。

失敗とする6つの理由（質問書から再掲）

1. 着工から32年、いまだに完成せず
2. プルトニウム、ウランの回収率悪い
3. 高レベル廃液のガラス固化進まず
4. トリチウム、クリプトン、ヨウ素等の放射性物質の環境への大量の放出
5. 累積総事業費15兆円越え
6. 装置機器の腐食、放射能汚染、耐震不可

質問1
原燃回答書（要点）
 繼続中のアクティブ試験は失敗だったのではないか？

質問2
原燃回答書（要点）
 現在保有の高レベル廃液は2025年3月末で227m³。せん断を行ふ前に、全量あるいは一部を処理する計画で、ガラス溶融炉検査を含めて原子力規制委員会が確認証を発行し適合確認する。

市民団体コメント
高レベル廃液のガラス固化は失敗だった

試験は6つの理由で失敗だったとしたが、回答書には全く見解が示されていない。

市民側再質問など
超危険な高レベル放射性廃液は水泳プール1

◎高レベル放射性廃液は、電源喪失で沸騰乾固後約350°Cで、化学爆発し、ウラン、プルトニウム、ストロンチウム、セシウムなど超ウラン元素が飛散し、汚染地域は人の住めない危険な地帯となる。六ヶ所工場のガラス固化溶融炉性能試験を完了せずに工場を動かしてよい道理はない。

◎ガラス溶融炉の「白金族沈没問題」は解決したのか？ 現有A系の炉の天井レンガ剥離状態で運転できるのか？ 既に提出されているPWR廃液のガラス溶融炉の報告書の審査はどうなっているか？

質問3 内閣府想定の日本海溝巨大地震と再処理工場の耐震について

原燃回答書（要点）
当社の地震動評価は日本海溝・千島海溝の評価から強振動を発生させている領域を重視し設定している。東日本大震災

時の震度は地表における振れを示しているが地下深く硬質の岩盤で策定された基準地震動と地表とは単純に比較できない。

質問4 高レベル放射性廃液事

原燃回答書（要点）
我が国はIAEAの定める基準に従って再処理施設は、「施設外で重篤な確定期影響を生じさせる恐れのない」施設としている。高レベル廃液が電源喪失しても反応温度に達するには、1週間以上の余裕がありその間に冷却機能を復旧出来る。

市民側再質問など 蒸発乾固後の「硝酸塩爆発」は、脅威が大きく被害甚大である。

◎硝酸塩爆発までの「1週間」の根拠が示されず大地震などで工場の受ける諸設備の破損による強烈な放射能漏洩について言及がない。人が近づけなければ一週間はたちまち経ち硝酸塩爆発が現実になる。

市民側再質問など 想定地震のエネルギー規模について日本原燃予測は内閣府予測より3割低い

時の震度は地表における振れを示しているが地下深く硬質の岩盤で策定された基準地震動と地表とは単純に比較できない。

我が国はIAEAの定める基準に従って再処理施設は、「施設外で重篤な確定期影響を生じさせる恐れのない」施設としている。高レベル廃液が電源喪失しても反応温度に達するには、1週間以上の余裕がありその間に冷却機能を復旧出来る。

原燃回答書と「質疑意見交換会」

青森の山田清彦さんから、現在設工認審査を60数箇条にわたり、原燃側からの審査書を逐一審査しているが、その進捗は極めて遅い。これまで、現在原燃が提示した二〇二六年度三月中の審査終了は難しままでは、現在原燃が提示した二〇二六年度三月中の審査終了は難しい。しかし安全審査は厳重に手抜きなく行うべきである、としました。



回答書への質疑意見交換会は一月二七日、六ヶ所村の原燃ふれあいプラザにおいて開催されました。冒頭に「六ヶ所村の新しい風」遠藤順子共同代表から「六ヶ所の自然をのまま生かし新しい村づくりを目指す市民団体」との質疑を深めたい、と述べました。

回答は、本紙一面から二面への記事の通りですが、アクリティブ試験

六ヶ所村の新しい風 2250913 遠藤街宣 U チューブ動



最終報告の提出と審査が未定である件やガラス溶融炉の白金族による炉底の詰まり、廃液の化学爆発の恐れ、日本海溝地震の耐震について説明を求めました。今後面もありました。今後会議員による質問主意書や委員会審議によつて質すことが大事であると市民側は認識しました。

原燃側も規制員会の設立認書類審査が滞り、「28回目の稼働延期」も現実にならざるを得ないと思われますが、竣工の動きには油断できません。